

サポーター体験記 300

ミツバチから広がる地域の輪！「江古田ミツバチ・プロジェクト」

取材日 令和5年10月28日 更新日 令和5年12月11日

令和5年度 [ねりまのあの人](#)

江古田にある武蔵大学の3号館屋上で養蜂を続けている「江古田ミツバチ・プロジェクト」。養蜂で地域活性化の役割も担っているという、興味深いプロジェクトです。立ち上げ当初の代表の谷口さんと、現在の代表を務める大矢さんに活動内容や思いなど、お話を伺ってきました。



江古田ミツバチ・プロジェクト

※以下、文中敬称略。

※養蜂作業の写真は取材別日に撮影したものです。

代表：大矢 昇治（おおやしょうじ）さん

広報担当：谷口 紀昭（たにくち としあき）さん

所在地：練馬区豊玉上 1-26-1 武蔵大学 江古田キャンパス

URL：<https://634honeybee.wixsite.com/634honeybee>

地域活性化を目指した「江古田ミツバチ・プロジェクト」

谷口「ミツバチの養蜂を通して、地域の特色づくりと活性化を目指すプロジェクトです。平成22年（2010年）から武蔵大学江古田キャンパスの3号館屋上で活動を続けています」



谷口さん（左）、大矢さん（右）

---どのようなきっかけで立ち上げられたのですか？

谷口「平成14年（2002年）、練馬区武蔵大学特別履修生制度を利用して、武蔵大学の環境講座を受けたことがきっかけです。これから少子化が進めば、江古田の街も学生が減っていくなかで、大学にも特色づくりと地域貢献が求められる...。そんな中でますます悪化する環境問題への関心と取り組みの向上を図るとともに、具体的に地域貢献・地域活性化につながる活動をしてゆきたいと思ったのです」

---なぜ養蜂を活動のテーマとして選んだのですか？

谷口「さまざまな人のご縁があり、銀座のビルの屋上で養蜂活動を行っている田中さんという方の話を聞きました。後の話し合いの中で、その方が練馬在住ということがわかり『ミツバチを練馬でもやりたいからご指導を！』となったのです。そして武蔵大学の校舎屋上で養蜂ができないだろうかと相談し、最後は武蔵学園の有馬学園長（当時）から了承をいただき、『江古田ミツバチ・プロジェクト』が平成22年（2010年）3月からスタートしたのです。『小さなミツバチの大きなはたらき』をテーマにして、環境問題、農業問題からハチミツスイーツづくりなどを通して具体的に地域貢献・地域活性化のお役に立てることが分かったからです」

ミツバチのこと、養蜂のこと

---育てているミツバチの種類について教えてください。

谷口「セイヨウミツバチを育てています。年に1回しかハチミツが採れないニホンミツバチと違って、セイヨウミツバチは春から夏にかけては月に複数回ハチミツを採取することができます」



ハチミツが採れる巣板。ミツバチがびっしり！

---ミツバチの種類によって、ハチミツが採取できる頻度も違うんですね。ミツバチは何匹くらいいますか？

谷口「養蜂は分類としては家畜にあたります。毎年3月にミツバチが入った巣箱を購入するのですが、巣箱には9枚の巣板が入ります。勢いのある群には巣板1枚の両面に3,000匹ほどミツバチがいますので、巣箱ひとつで2万匹強いることになります。さらに増えると継箱を上に乗せてゆき、巣箱が3段になる群もありますが、群によって全部状態が違いますから、一概に何匹とは言えません」

---「江古田ミツバチ・プロジェクト」の養蜂作業はどのように行われていますか？

大矢「毎週土曜日の午前に集まり、内検作業をします。巣箱の中を見ながら、①女王バチはいるか、②卵は十分に産まれているか、③蜜や花粉の量は採れているか、④(※)王台はできていないか、⑤ミツバチの健康や病気はどうか、⑥ミツバチの数や蜜などと巣板の数は適切か、⑦スズメバチなどの外敵に襲われていないか、などをチェックして、蜜がたまっていれば採蜜をします」

(※) 王台...ミツバチの巣で女王蜂の幼虫が育てられる房。



安全な服装で巣箱の中を念入りにチェック

プロジェクトでは、どんな活動をしているの？

---参加メンバーはどのような方々ですか？

大矢「小学生から武蔵大学の学生、現役会社員、80代までと幅広い年代の約60名。その中でも毎週土曜日の作業に来るメンバーはだいたい決まっており、20名前後です。熱心に活動している中には小学生もいます」

---先ほど少し見学させていただきましたが、世代を問わず和気あいあいと楽しそうに作業されている姿が印象的でした。週1回の養蜂作業のほかにも活動があれば教えてください。

谷口「武蔵大学での一般人を対象にした養蜂場見学とミツバチ講座、ミツバチ講演会、大学祭への出展をはじめ、練馬区の6月の「環境月間行事」や3月の「つながるフェスタ」への出展、対象を小学生親子に絞った「夏休み自由研究応援教室」（ミツバチの秘密調べとハチミツケーキづくり）や練馬区教育委員会委託講座「遊遊スクール」（小さなミツバチの大きなはたらき講座）、今年は、さらに幼稚園の先生や幼稚園児にまで出前講座が広がってきています。また、養蜂場見学、ハチミツ試食、ハチミツケーキづくり実習、ミツロウからのロウソクづくりやハンドクリームづくり、ハチミツ商品販売、小学生の自由研究資料や関連図書の展示と説明など、多様な内容を組み合わせた講座構成や行事対応ができるのも、参加した皆様から喜ばれる要因になっていると思います」



武蔵大学「ミツバチとハチミツを活かす講演会」（2019年2月）



武蔵大学「白雉祭」への出展、1日目はロウソクづくり・2日目はハンドクリームづくり（2023年11月）



勤労福祉会館での「夏休み自由研究応援教室」小学生親子対象のハチミツケーキづくり（2023年8月）

異常気象でハチミツの採取量が減った!?

---年間どれくらいのハチミツが採れますか？

谷口「かつては年間400kgのハチミツが採れた時期もありましたが、今年は150kgほどです。ハチミツの採取量が減っていくのは悩ましいですね」



採取したハチミツ

---昨今のハチミツ採取量の減少に原因はあるのですか？

谷口「巣箱からミツバチがハチミツ採取に飛行できる距離は3km 圏内といわれます。ハチミツの採取量が減少したことにはいろいろな原因があると思いますが、やはり気候異変の影響が大きいのではと思っています」

---それは近隣の花が減ったということですか？

谷口「いいえ、近隣を見ても花が減っているとは思えません。花自体がミツや花粉を作り出す力が減っているのではないのでしょうか。今までは、例えば桜の花が咲くと、ミツバチを始め昆虫やメジロ、スズメ、ヒヨドリなどが群がっていましたが、今年はそれが見られませんでした。アカシアでも同様ですし、自宅の前の公園のクローバーの花にも一番に来ていたチョウが極端に少なかったです」

---メディアの報道でも地球環境の変化はよく聞きますが、ミツバチからもその知らせが届いているのですね。

谷口「ハチミツの採取量としてこんなに明らかな違いが出てくると、地球温暖化の深刻さに危機感を感じずにはいられませんね」

---採取したハチミツは、どのように活用されていますか？

谷口「地元のカフェや製菓店に卸しています。売り上げはプロジェクトの活動費用に充てているので、採取量によって次年度の活動費用が左右されます。ですが、地域を活性化するためのプロジェクトで、協力して下さるお店のことを考えると、値上げはあまりしたくないですね」



取材の様子

江古田産のハチミツは商品化されています！

---私たちが「江古田ミツバチ・プロジェクト」のハチミツを味わえるお店を教えてください。

谷口「卸したお店で、それぞれハチミツを使った商品づくりを展開しています。『ねりコレ』に選ばれている商品もあり、地元のお土産としても喜ばれていますし、会合や打ち合わせなどのお茶菓子にもよく利用されています」

※商品の情報は下記のサイトをご覧ください。

江古田ミツバチ・プロジェクト「お菓子紹介」

<https://634honeybee.wixsite.com/634honeybee/sweets>

谷口「江古田産のハチミツを地域で使ってもらって、多くの人にハチミツスイーツを味わってもらえる。地産地消が実現したのも、人と人とのコミュニケーションがあったからこそ！と、本当にうれしく思います。どれもおいしく、魅力的な商品ですのでぜひ食べてみてください」



武蔵大学「白雉祭」ハチミツマドレーヌなど、ハチミツを使った商品販売（2023年11月）

元気の秘訣と、シニア世代へのメッセージ

---今までないものを一からつくり上げていくのは、とてもエネルギーのいることだと思います。「江古田ミツバチ・プロジェクト」を始められたのはおいくつの時だったのですか？

谷口「平成14年（2002年）、武蔵大学で環境講座を受講し、その後、準備期間を経て平成22年プロジェクトを立ち上げたときに74歳、現在は87歳です」

---お元気の秘訣はズバリなんですか？

谷口「毎日の会話を大切にすること。プロジェクトの立ち上げも人のご縁でしたし、ひとつひとつのコミュニケーションを大切にしてきたからこそ多くの方のご協力がいただけ、長く活動が続いているのかもしれない。それにミツバチ活動がそれなりに地域のお役に立っているかなと思えることが『やりがい』になり、元気の源になっているように思います。大矢さんもすごいんですよ。交流の輪が広く、様々な方とのつながりがあり、応援団もやっていたんですよ」

大矢「私は今年で77歳です。日々を楽しく過ごすことが一番ですね。ハチミツを採取する瞬間、みんなで喜び合う、そういうことが大切なんだと思います。これからは無理をせず、自分のペースでやっていきたいですね」

谷口「コミュニケーションは自分も周りの人も元気にしてくれます。細かいところに気を遣いながら話していくと、そこから良い“つながり”や“広がり”へと結びついていくはずです」

プロジェクトに関わる皆さんのお話から、包み込むような温かさを感じました。私たちが地球に、周りの人や生き物に、そして自分自身に、気遣いをもって生きる大切なことを教えていただきました。ありがとうございました。

サポーターの取材後記

ブカブカ

武蔵大学の3号館は築100年という歴史ある建造物。軽やかな足取りで階段を上る谷口さんに続いて、養蜂場がある屋上へ。残念ながら働き蜂の活動期は過ぎてしまったようでしたが、養蜂箱や採取した蜂蜜などを拝見後、谷口さんから蜂の生態や飼育の仕方をはじめ、人的ネットワークづくりなど多岐にわたるお話を伺いました。中でも印象に残ったのは、養蜂作業を見学したり、手伝ったりした子どもたちがまとめた記録や作文が見事だったこと。まさに生きた環境学習の賜物といえます。そんな次世代への期待が膨らむ一方で、谷口さんは、ハチミツの採取量がピーク時から減少していて、異常気象の影響を危惧しています。「農作物や植物の受粉を助けるミツバチが地球上から絶滅すると、人間は生きられません」とのこと。プロジェクトの活動に敬意を表するとともに、ミツバチがいつまでもミツを集めることができる自然環境を残すためにも、環境問題に真摯に向き合いたいと思いました。

野面

「江古田ミツバチ・プロジェクト」...なんと夢を感じさせる名前だろう。谷口さんご自身がプロジェクトに関わるようになった経緯からこれまでの活動の全体像を、流れるような語り口でお話いただきました。ミツバチが好きで始めたのではなく、現役引退後に環境問題の視点から勉強を始め、養蜂にたどり着いた話は少し驚きでした。晩秋で花も少なく、ミツバチの活発な活動を見ることはできませんでしたが、プロジェクトが2010年のスタートから現在まで続いてきた理由の一端が、単にミツバチを飼育するだけでなく、活動を通じ人と人とのつながりに重点を置いていることにあると分かりました。また、養蜂は届出が必要な「飼育」であり、一から育て、管理してハチミツという果実を得るもの、という話も新鮮でした。今年は異常気象のためか花やミツの量が少なく、ハチミツの採取量も少なかったそうです。大きく変わりつつある地球環境の変化の一端を、この活動で知ることができたというのも興味深いものでした。春、江古田の町に花が咲くころ、元気なミツバチがたくさん飛ぶところを見たいものです。

とっとり君

武蔵大学のキャンパス内を拠点とした「江古田ミツバチ・プロジェクト」は、区民参画も手伝って教育的にも事業展開ぶりも模範的なグループだと痛感した。「ミツバチは家畜なのです」との谷口紀昭さんの言葉にはビックリ仰天であった。ミツバチの箱が飼育箱と呼ばれているから納得だ。ミツバチの社会は役割分担がしっかりしていて、フランスのナポレオン・ボナパルトはミツバチを「家紋!？」にしているという話も初めて知った。あのルーヴル美術館にもヴェルサイユ宮殿の絵や彫刻にも、ミツバチのモチーフが飾られているという。ミツバチと人間には昔から深いつながりがあるということに、毎朝食事にハチミツを味わいながら感慨深さを感じている。谷口さんのミツバチに関する博学ぶりには只々感服するばかりで、取材の時間はアツという間に過ぎてしまった。谷口さんはもうすぐ米寿を迎えるという。「これからも『江古田ミツバチ・プロジェクト』の活動に努め、楽しい人生を送っていきたい」と宣言されたが、この人の健康の秘訣はひょっとしてハチミツかも。

サポーター紹介▶

おすすめの体験記



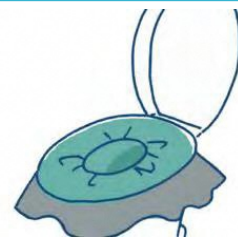
練馬から発信! 指1本で音楽家になれる指笛の魅力

© 2023年6月12日



練馬のブルーベリー観光農園の楽しみ方〜「高松四丁目宮本園」へ行ってきました!〜

© 2023年9月25日

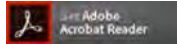


災害時の「トイレの備蓄」はできていますか?

© 2023年6月27日

シェアする

ツイートする



PDF形式のファイルを開くには、Adobe Acrobat Reader が必要です。お持ちでない方は、Adobe社から無償でダウンロードできます。

[Adobe Acrobat Readerダウンロード](#)

シニアナビねりま

練馬区高齢社会対策課 いきがい係
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6-12-1
03-5984-4763 (直通)

* 受付時間：午前9時～午後5時 (土日祝日、年末年始を除く)

サイトマップ

[トップページ](#)

[イベント](#)

- ・ 今月のイベント
- ・ 来月のイベント

[サポーター体験記](#)

- ・ 体験記
- ・ サポーター紹介
- ・ OB・OG徒然記

[サークル・サービス団体](#)

- ・ サークル一覧
- ・ サービス団体一覧

ボランティア情報

- 募集中のボランティア
- ボランティアについて調べる

地域から探す

- 練馬地区
- 石神井地区
- 大泉地区
- 光が丘地区

ナビ通信

お知らせ

各種お申込み

- 新規団体申込
- イベント掲載依頼
- お知らせ掲載依頼
- メールマガジン登録
- ご意見・ご要望
- バナー広告掲載について

ご相談窓口

- 各種相談窓口
- シニアナビねりまについて
- よくある質問
- 老人クラブ情報
- ご家族の方へ

個人情報について・免責事項